

会派政務調査活動・先進地調査等 精算書

2025年7月25日

三田市議会議長 様

本会派（私）は、会派政務調査活動・先進地調査に要した費用の精算結果を下記のとおり報告します。

会 派 名	さんだの未来		代表者	佐貫尚子
			議員名	小山裕久
派遣者氏名	佐貫尚子・関口正人・小山裕久・中田哲			
視 察 先	富山市 総曲輪レガートスクウェア 1日目 福井県池田町 2日目			
調 査 事 項 (調査目的)	富山市総曲輪レガートスクウェア 民間活力を生かした学校跡地活用 福井県池田町 地域資源を活かした教育			
日 時	令和7年7月16日（水曜日）～令和7年7月17日（木曜日）			
支 払 金 内 訳	科 目	支 出 額	摘 要	
	宿泊料	13,500 円		
	日 当	6,000 円		
	鉄道賃 (モジュール)	24,380 円	JR 三田駅⇒JR 富山駅 10,950 円 JR 富山駅⇒JR 福井駅 5,480 円 JR 福井駅⇒JR 三田駅 7,950 円	
	航空賃			
	バス賃	420 円	富山駅前⇄総曲輪 210 円 × 2	
	レンタカー	2,718 円	レンタカー10,873 円 (ガソリン・保険込み) 10,873 円 ÷ 4 名 按 分 = 2,718 円 視察時刻に合うバス便無し、タクシー料金よりも費用が安価であった為、レンタカーを利用。	
	タクシー			
	その他	3,475 円	視察先へのお土産代4人で按分 2,900 円 ÷ 4 = 725 円 視察料金 11,000 円 ÷ 4 = 2,750	
	合 計	50,493 円		
備 考	視察時刻に合うバス便が無く、タクシー料金よりも費用が安価であった為、レンタカーを利用。			

※100 km未満の距離における特急利用、タクシー利用の理由は備考欄に記入。

会派支給の場合、会派名、代表者名を記入してください。

個人支給の場合、会派名[無会派は記入不要]、議員名[代表者名は記入不要]を記入してください。

令和7年7月25日

三田市議会議長 福田 秀章 様

本会派（私）は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	さんだの未来	代表者	
		議員名	小山裕久
派遣者氏名	佐貫尚子・関口正人・小山裕久・中田哲		
視察先及び 調査事項	富山市 総曲輪レガートスクウェア		
日 時	令和7年7月16日（水曜日）13時0分～15時50分		
視察先対応者	富山市企画管理部企画調整課 政策調整係長 酒井真実子、 NPO 法人まちづくりスポットとやま 菅原 裕子 NPO 法人まちづくりスポットとやま カスティーロ美智子 NPO 法人まちづくりスポットとやま 板屋 亜希恵		
(調査結果の概要及び所見) 別紙でも可			
<p>整備内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 敷地面積：約 8,700 m<sup>2</sup></li> <li>● 公共施設部分 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 富山市まちなか総合ケアセンター <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 産後ケア応援室、病児保育室、こども発達支援室など子育て支援機能</li> <li>▪ 多世代交流スペース「まちなかサロン」</li> </ul> </li> <li>○ 大和リースグループが整備 → 竣工後に富山市が買い取り</li> </ul> </li> <li>● 民間施設部分 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大和リースが富山市と30年間の事業用定期借地権契約</li> <li>○ 入居施設： <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 学校法人青池学園（医療福祉・調理製菓専門学校）</li> <li>▪ グンゼスポーツ富山レガートスクエア（スポーツクラブ）</li> <li>▪ ナチュラルカフェ広貫堂（健康志向カフェ）</li> <li>▪ ローソン富山総曲輪店（コンビニ）</li> <li>▪ ファーマみらい広貫堂薬局（調剤薬局）</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>			

- Dパーキングレガートスクエア（325台立体駐車場、コンビニ・薬局と同一棟）

#### 周辺の集積

- 富山市医師会看護専門学校（新築移転）
- 既存体育館

#### 効果・ねらい

- 公共施設による子育て・福祉支援の充実
- 専門学校学生数の増加（最大約540人）による街のにぎわい創出
- 商業・スポーツ・飲食などの複合機能による地域活性化

#### まとめ所見

富山市の事例は、単なる再開発ではなく、

1. 公共と民間の役割分担
2. 複合機能化で日常利用促進
3. 教育機関誘致で若年層流入
4. 健康・商業・交通機能の一体化

を同時に実現しています。

三田市でも、駅前や中心市街地の再生において、このような複合型・民間活力導入モデルを採用することで、財政負担を抑えつつ、福祉・教育・経済を一体で底上げできる可能性があります。

会派支給の場合、会派名、代表者名を記入してください。

個人支給の場合、会派名[無会派は記入不要]、議員名[代表者名は記入不要]を記入してください。

(様式7-3)

政務調査活動・先進地調査等 報告書

三田市議会議長

福田 秀章 様

R7年7月25日

本会派(私)は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	さんだの未来	代表者	佐貫尚子
		議員名	小山裕久
派遣者氏名	・佐貫 尚子                      ・関口 正人 ・中田 哲                        ・小山 裕久		
視察先及び 調査事項 (調査目的)	福井県池田町 池田町地域資源を活かした教育		
日 時	令和7年7月17日(木) 10時～		
視察先対応者	・福井県池田町 教育委員会事務局局長 山本弘紀 ・福井県池田町役場 総務財政課 宮本礼		
(調査結果の概要及び所見) 別紙でも ・概要及び所見別紙 ・池田町の教育パンフレット ・当日の写真2点 ・当日対応者名刺			

会派支給の場合、会派名、代表者名を記入してください。

個人支給の場合、会派名[無会派は記入不要]、議員名[代表者名は記入不要]を記入してください。

# 福井県池田町「地域資源を活かした教育」に関する視察 報告

令和7年7月17日(木) 会派さんだの未来

このたび、会派「さんだの未来」として福井県池田町を訪問し、「地域資源を活かした教育」に関する視察および調査を行いました。以下にその概要と所見を報告いたします。

## 1. 池田町の概要

池田町は福井県と岐阜県の県境に位置し、人口 2,174 人、世帯数 875 世帯、高齢化率 47.7%(令和7年4月現在)と、人口減少と高齢化が著しく進行している地域です。町内にはコンビニが1軒もなく、信号機も日中点灯1基、常時点灯1基にとどまります。令和5年11月に冠山峠道路トンネルが開通するまでは、岐阜県側へのアクセス路も整備されておらず、交通・流通面でも厳しい状況にありました。

このような環境から、池田町は「過疎」「特定農山村」「特定豪雪」「辺地地域」などの指定を受けており、「消滅可能性自治体」としては福井県内で最も該当リスクが高い自治体とされています。

しかしながら、九頭竜川水系・足羽川の最上流に位置する水資源に恵まれた地域であり、8月末には一面に黄金色の稲穂が広がります。昼夜の寒暖差を活かした米づくりが盛んで、「噛むほどに甘い米」が名産として知られています。

## 2. 地域と連携した特色ある教育の取組

池田町では、「未来へつなぐひと育て」を教育理念に掲げ、持続可能なまちづくりを支える人材育成に力を入れています。認定こども園(園児 56 人)、小学校(児童 64 人)、中学校(生徒 31 人)と、いずれも小規模校ですが、その規模を活かした教育が展開されています。

地域と連携した授業や活動が特徴的で、住民が講師を務める俳句教室や野菜栽培のほか、福井国体の会場にもなった「クライミングクラブ」など、地域資源を活かしたクラブ活動も行われています。こうした取り組みを通じて、子どもたちは地域とのつながりを自然に深め、多世代交流による社会性を育んでいます。

---

### 3. ICT を活用した先進的な教育環境整備

教育環境の充実にも力を入れており、とりわけ「情報活用能力」の育成を重視しています。生徒用には5教科すべてでデジタル教科書を導入しており、ICTの積極的な活用により学習の理解度向上を図っています。

その成果として、池田町は福井県の「学校教育DX推進調査」において県内第2位の評価を得ています。さらに、義務教育学校の設置を見据えた検討や、修学旅行を「教育旅行」として再定義する動きも見られ、令和6年度からは以下のような経済的支援が実施されています。

- 中学校: 上限 10 万円
- 小学校: 上限 6 万円

これにより、児童生徒が主体的に学びに関わる環境が一層整えられています。

---

### 4. 所見および三田市への示唆

今回の視察を通じて、小規模であっても地域と学校が連携することで、教育の質を高め、子どもたちの社会性や学びへの意欲を育むことができるという池田町の取組は、三田市においても大いに参考になると感じました。

本市も地域によっては小規模校が増加傾向にあります。今後は、地域と連携した教育の推進により、子どもたちが幅広い年代と交流し、豊かな人間関係を築ける環境づくりが重要です。

また、ICT環境の整備については、自治体の規模に左右されるものではなく、工夫次第で効果的な導入が可能です。今後も他自治体の事例を参考にしながら、さらなる調査・研究を重ね、子どもたちの学習効果を最大限に引き出せる教育環境の整備に取り組む必要があると強く感じました。(小山裕久)